

平成 30 年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域の美術館・博物館を中核とした文化クラスター事業)
大津波被災文化財保存修復連携プロジェクト

「津波被災文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」

**平成 30 年度大津波プロジェクト主催
支援シンポジウム
「よみがえる文化財と博物館の復興」**

「津波被災文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」

2019 年 2 月 9 日 (土)

会場：陸前高田市コミュニティホール (シンガポールホール)

「津波被災文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」

主 催

津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と
専門機関の連携に関するプロジェクト

支援シンポジウム「よみがえる文化財と博物館の復興」

開催主旨

東日本大震災発災からまもなく7年11ヶ月が過ぎようとしています。未曾有の大規模自然災害発生により甚大な被害を受けた被災地では今も、様々な分野で復興のための懸命な活動が続けられています。巨大地震発生後に襲来した大津波によって、東日本の太平洋沿岸に立地する文化施設もその多くが甚大な被害を受けました。中でも、岩手県陸前高田市の市立博物館をはじめとする4つの文化施設は特に深刻な被害を受けた施設で、現在も27万点を超える被災資料がその再生を待っています。

再生を待っている資料の中には、これまでに構築された安定化処理技術に更なる改良を加えたいうえで対処しなければならない資料や、新たな処理技術を確立したいうえで処置しなければならない資料が大量に含まれています。わが国はもとより国際的にみても未経験な「安定化処理技術の構築」という課題に対処するため、「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」では、試行錯誤を重ねながら安定化処理技術を構築しつつ、被災地において連綿と続けられている被災文化財等再生の活動に対する理解の醸成を図ること、これまでに確立された安定化処理技術の普及と継承を進めること、今後の類似する自然災害発生時における円滑な対処を図ること、被災した博物館の復興を支援することを主な活動の目的に掲げ、2014年5月以降、安定化処理技術をテーマとする特別展、ワークショップ、講演会、シンポジウムを全国の博物館、大学等で実施してきました。

このたび陸前高田市で開催される支援シンポジウムでは、「よみがえる文化財と博物館の復興」をテーマに、これまでの被災文化財再生の軌跡をたどりつつ、現在直面している技術的課題を確認いたします。次に、“奇跡の海”と呼ばれる三陸の海を背景に、広田湾で繰り広げられてきた漁撈の歩みと使用されてきた様々な用具類の再生及び整理状況、今後の活用計画について説明いたします。最後に、被災した博物館の復興の見通しについて報告いたします。

本日の支援シンポジウムをとおり、現在連綿と続けられている安定化処理に対する支援の輪が広がり、今後発生が懸念される大規模自然災害に対する備えが一層進みますこと、そして被災した博物館の一日も早い再建がなされますことを切に希望いたします。

タイムテーブル

開会のことば

- 主催者挨拶 高橋 廣至 プロジェクト実行委員会長
主催者挨拶 銭谷 眞美 公益財団法人日本博物館協会会長・東京国立博物館長
共催者挨拶 金 賢治 陸前高田市教育委員会 教育長
-

シンポジウム

テーマ1 被災文化財再生の歩み

- 13:40～14:00 津波で被災した博物館資料の救出から再生への歩み
神庭 信幸 (救援委員会岩手県担当・前東京国立博物館)
- 14:00～14:20 東日本大震災 津波で被災した文化財再生の歩み
—安定化処理の現状と課題—
赤沼 英男 (岩手県立博物館)
- 14:20～14:40 自然史標本再生の現状と課題
鈴木 まほろ (岩手県立博物館)
- 14:40～15:00 被災資料の安定化処理における現在の課題
鈴木 晴彦 (愛知県立芸術大学大学院)

(休憩 5分)

テーマ2 再生が進む陸前高田の漁撈用具

- 15:05～15:35 奇跡の海「三陸」～豊かな文化を育んだ自然～
朝日田 卓 (北里大学海洋生命科学部)
- 15:35～16:05 三陸の漁撈と文化財保護～陸前高田を中心に
石垣 悟 (文化庁文化財第一課)

テーマ3 陸前高田市立博物館の再建を目指して

- 16:05～16:20 陸前高田市立博物館の再建について
大久保 裕明 (陸前高田市立博物館)
-

総括及び閉会

- 16:20～16:25 半田 昌之 (公益財団法人日本博物館協会専務理事)